

教育シン・カ論

コロナから問う

〇〇2〇〇

花まる学習会 高浜正伸代表

生き残るための教育とは

当たり前前疑う哲学の機会に

「これからは「めっちゃくちゃ変化する世界」になります。そこで生き残るための教育は、意外と本質的なものではないでしょうか。つまり、考える力と、考えたことを言葉にする力を身に付ける、そして、体験総量を増やすことが大切です。」

「それだけ遊んでけんかをしたり、障害のある人や外国の人と出会ったかー。挫折も含めた多様な豊かな経験が足りない」と大人になった時、苦手に感じた

な事態に対応できない。知識を蓄えて正しい答えを出すのは今後、人工知能(AI)がやってくれます。そうではなく、働く頭をつくるのが大事。

そして、生き方は自分で決めてはいけません。自分の「好き」を大事にし、それで飯を

人の共通点は高校、大学で「不良」だったということらしい。周りの言動が絶対とは思わず、従わない。学校に行かず街でフラフラしながら、自分のペースを取り戻し、世界を自分の言葉で語り直す。正解なき人生で誰の笑顔を一番大切に

食うために何が必要かを考える。それには「哲学」が必要ですが、何にでも効率を求める勢困気の今はその時間がありません。

「より良い枠組みを選ぶために良い成績を取る」という従来の考え方は、コロナ禍のよう

「シリコンバレーで大成功した考え、周囲の期待や常識を取り

去った上で「やっぱりこれがやりたい」というビジョンを明確に持つことが大事です。コロナ禍は「不良」でない人にも「当

たり前」を疑う哲学の機会を与えてくれたのではないのでしょうか。



高浜正伸さん。「教育とは、生きる力のバトンを渡し続けていくことです」

たかはま・まさのぶ 1959年熊本県生まれ。幼児から中学生までの学習塾「花まる学習会」代表。3浪して東京大に入学、90年に同大学院修士課程修了。思考力や野外体験を重視する独特の教育理念や学習法で注目される。算数オリンピック作問委員も務める。